

映画「明日に架ける愛」香月監督らが舞台挨拶

青森県、東京、中国を舞台にした日中友好40周年記念映画「明日に架ける愛」特別試写会の舞台挨拶が3月10日、シネマヴィレッジ8・イオン柏で開催され、主演の市井紗耶香さんが約130人の市民らの前で作品への思いや青森の印象などを語りました。市井さんは「自分にとっての代表作となった。大切な人と見てほしい」、アレックス・ルーさんは「青森の風景や人の温かさに感動した。この映画が日本と中国の架け橋となれば」、香月監督は「子どもを育てることは国境や民族を越え、命をつないでいくということを描きたかった。岩木山の風景にほれ、青森をロケ地に選んだ」と話しました。最後に福島市長らが花束を贈り、記念撮影を行いました。



つがるちゃんも交えて記念撮影



家族らに囲まれて祝福される佐々木ハナさん

佐々木ハナさん100歳長寿おめでと

佐々木ハナさん（稲垣町）が3月21日、満100歳を迎えられ、入所している安住の里で長寿を祝いました。

ハナさんは明治45年生まれで20歳のときに結婚。雑貨店を受け継ぎ、子ども7人、孫16人、ひ孫22人、やしゃご1人に恵まれました。ハナさんは歩行器を使いながら施設内を散歩するのが日課で、三女の秀子さんによると「好き嫌いなく何でもよくかんで食べていることが長寿の秘訣ではないか」とのことです。お祝い会で顕彰状や花束などを受け取ったハナさんは、誕生日ケーキのろうそくを上手に消し、友人から歌や拍手が送られると、「とてもうれしい」と笑顔を見せていました。

つがる市商工会青年部が全国顕彰

つがる市商工会青年部（奈良信幸部長）が2月7日、和歌山市で開催された商工会青年部全国組織化45周年記念大会で全国約1700の青年部の中から6団体が選ばれる「まち（地域）づくり部門」で顕彰されました。

同青年部は、昨年8月に東日本大震災の被災者を励ますため岩手県山田町でネブタ運行を行ったこと、一昨年「ふるさと自慢わがまちCM大賞」に参加して大賞を受賞しメディアを利用した地域振興に貢献したことが評価されました。奈良部長は「とてもうれしい。今年も被災地を支援したい」、傳法谷純大副部長は「受賞は地元の皆さんの協力のおかげ。今後の励みになります」と話していました。



全国表彰された市商工会青年部のメンバー



仲良くゲームを楽しむ1年生と園児たち

ひなまつりで園児と児童が交流

車力幼稚園（工藤恵子園長）の園児21人と富港小学校（齊藤斉校長）の1年生26人が2月29日、車力幼稚園で合同のひなまつり会を行い交流を深めました。

この日は全員でひなまつりの歌を歌った後、1年生が学校で得意となった縄跳び、暗算、鍵盤ハーモニカの演奏などを園児たちに披露しました。なかよしリレーでは2班に分かれて、ひなまつりのお面を付け、園児の座った布の端を1年生が引っ張り、速さを競いました。最後に仲良くお菓子を食べ、年長児の加茂絞佳ちゃんは「楽しかった。小学校に入ったらお姉さんみたいに縄跳びの交差跳びができるようにがんばる」と話していました。



つがる女性加工部が農林水産大臣賞受賞

地元の食材を使った米加工品や漬け物等を製造販売する白龍産業つがる女性加工部（竹内きよゑ部長）が平成23年度「食アメニティコンテスト」で農林水産大臣賞を受賞しました。これは「食」を通じた起業活動で地域活性化に貢献している取り組みを表彰するもので、全国31事例の中から選ばれました。同部では、伝統料理を若い人たちにも好まれる味に改良するなど創意工夫しながらスーパー、ホテル、学校給食など販売先を拡大。食文化の継承や農業振興への貢献が評価されました。竹内部長は「漬け物はつがる市の宝。昔の味をアレンジしながら食文化を若い世代に伝えていきたい」と今後の抱負を述べました。



福島市長へ受賞を報告した加工部のメンバー



緑十字金章を受賞した桜庭修さん

桜庭修さんが交通安全活動で緑十字金章を受賞

地域の交通事故防止に長年貢献してきたつがる地区交通安全協会・会長の桜庭修さん（森田町）がこのほど交通安全功労者として交通栄誉章緑十字金章表彰を受けました。

桜庭さんは、昭和43年に交通指導隊入隊以来、地域における交通安全運動をはじめ、各関係団体と連携しながら43年にわたり交通事故防止活動に尽力してきました。また、交通安全標語の短冊や色紙を制作し、公共施設に配布しながら、交通安全を呼び掛ける活動も続けています。受賞した桜庭さんは「たいへん光栄です。交通安全活動は特別なことではなく、当たり前活動だと思っているので、これからも地域の皆さんと力を合わせて事故防止に努めていきたい」と話していました。

介護への理解深める

3月10日、イオンモールつがる柏で市社会福祉協議会による介護教室が開催され、買い物客らが高齢者や介護について理解を深めました。

介護技術の実演では、社協職員が介護する人とされる人になり、ベッドから起き上がる場面を実演し「体位を変える時のちょっとしたコツをつかむことで介護する側もされる側も楽になる」と解説。高齢者疑似体験では、参加者がサポーターや耳栓、白内障を再現する眼鏡をかけ、つえをついて歩いたり、財布から小銭を取り出す作業を行いました。体験した山谷姫頼莉さん（木造中1年）は「小銭が見えづらく間違えた。お年寄りの大変さがわかった」と感想を話していました。



高齢者疑似体験をする参加者



大空高く舞い上がる凧を操る参加者

伝統の津軽凧 天高く舞う

第18回つがる市稲垣凧揚げ大会が稲垣町の岩木川河川公園で開催され、県内外から40団体、約300人の愛好者たちが集まって凧揚げの腕前を競い合いました。

同大会は稲垣凧の会（横山勇一会長）が主催。競技は各部門に分かれて行われ、凧の揚げ方、安定度、鳴りなどの審査が行われました。この日は風に恵まれ、大凧や創作凧が空高く舞い上がり、大きな歓声が沸いていました。

結果は次の通り。（敬称略・最優秀賞のみ）

子供の部：中野紘和、Aクラス：米谷慶治、Bクラス：木村富彦、Cクラス：江良一、団体の部：車力津軽凧愛好会、創作の部：村上ハル